



三重県公立小中学校教頭会
〒514-0003 津市桜橋2丁目142
教育文化会館別館3階
TEL 059(228)2340
FAX 059(228)2271
E-mail : mieheadt@hyper.ocn.ne.jp



会長就任にあたって

三重県公立小中学校教頭会会長
増 地 陽 一

5月6日（金）に開催されました「三重県公立小中学校教頭会総会」で、私を含め8人の新役員を選任していただきました。県下542名の教頭先生方の代表として、この重責を努めさせていただきますことに、改めて身の引き締まる思いがいたします。どうか皆様の温かいご理解とご支援をいただきますようお願いいたします。

さて、昨今の学校を取り巻く状況を見ると、いじめや不登校は一定の改善は見られるものの依然として深刻な状態にあり、スマホなどを使ったネット上でのいじめが、この問題をより複雑化させています。また、子どもたちの学力の二分化に象徴されるような格差の問題は、日本の社会全体の大きな問題になっており、社会的に不利な立場にある子どもたちに確かな学力を保障していくことは、学校として取り組まなくてはならない大きな課題です。

このように学校は、多くの課題を抱えながら、その課題解決に向けて取り組んでいます。しかし、このような厳しい状況の中、文部科学省からは、「道徳の教科化」「小学校における英語の教科化」「アクティブラーニングの導入」など矢継ぎ早に新しい時代に向けての取り組みが現場においてこうとしています。さらに、「新しい人事評価制度の本格的導入」など現場の職員からの信を問われる取り組みにも丁寧に応えていかなくてはなりません。

ません。これらの取り組みの趣旨を理解し、その中身を丁寧に分析し、学校のミドルリーダーの先生方と検討を重ねながら、その導入を図っていくのも私たち教頭の仕事だと思います。ところが、それらの新しい取り組みを過去の経験から分析し推進していく中心となつてもらうべき、ミドル層の先生方の多くが、大量退職時代の影響を受けて、早々と第一線から退いていく傾向にあります。私たち教頭は、新たな現場のリーダーとなり得る人材の育成も図りながら、校長先生の指示示す方向に向けて、職場をまとめ舵取りをするとしても難しい立場にあります。こういう難しい仕事だからこそ、私たちは管理職としての誇りを胸に、教頭としての資質を磨き、研究と実践を続けていかなくてはいけません。しかし、人間は一人で頑張るには限界があります。絶対に孤立することなく、同じ苦労を理解し合えるこの仲間と共にみんなで手を携え、お互いに切磋琢磨して頑張っていきましょう。そして、子どもたちが安心して学ぶことができるより良い教育環境を確立するため、力を合わせて取り組んでいきましょう。本教頭会が真に「政策提言能力を備えた職能研修団体」となっていくことこそが、子どもたちが輝く未来を手にすることにつながっていくと信じて疑いません。

会員の皆様方の力強いご支援とご協力を重ねてお願いし、会長就任の挨拶とさせていただきます。

平成28年度 県教頭会本部役員名

役 職	名 前	学 校 名	名 前	学 校 名
会 長	増 地 陽 一	芸濃中学校		
副 会 長	北 川 英 典	深伊沢小学校	廣 岡 貞 之	梅が丘小学校
”	三 谷 雅 人	西 笹川中学校		
書 記	前 田 一 誠	久居西中学校	松 本 賀 美	三 雲 中学校
会 計	東 和 彦	加茂小学校	北 村 協 右	三 浦 小学校

事務局長	辻 幸 子
事務局員	黒 田 敦 子

Eメール mieheadt@hyper.ocn.ne.jp
URL : <http://mie-kyotokai.jp>
(ホームページアドレス)

平成28年度 郡市会長・理事名

郡 市 名	会 長		理 事	
	名 前	学 校 名	名 前	学 校 名
桑名市・桑名郡	塚 脇 恵 子	大山田北小学校	堀 田 直 人	久 米 小 学 校
いなべ市・員弁郡	川 崎 誠	治 田 小 学 校	川 崎 誠	治 田 小 学 校
四日市市(小)	福 島 孝 直	浜 田 小 学 校	川 村 義 修	川 島 小 学 校
四日市市(中)	多 田 真 彦	桜 中 学 校	井 上 勝 史	山 手 中 学 校
三 重 郡	大 立 目 佳 久	八 風 中 学 校	内 田 信 司	菰 野 小 学 校
鈴 鹿 市	百 々 淳 子	創 徳 中 学 校	伊 藤 敏 材	若 松 小 学 校
龟 山 市	花 岡 繁 治	関 小 学 校	杉 谷 真 孝	白 川 小 学 校
津 市 北	権 部 直 孝	明 合 小 学 校	長 谷 川 雄 一	東 觀 中 学 校
津 市 中	松 山 知 司	栗 真 小 学 校	仲 井 荣 二	豊 里 中 学 校
津 市 南	和 田 弘	白 山 中 学 校	村 田 広 行	香 良 洲 小 学 校
松 阪 市	小 筆 邦 昭	幸 小 学 校	宮 寄 文 男	豊 田 小 学 校
多 気 郡	丸 谷 実	外 城 田 小 学 校	千 原 吉 浩	下 御 糸 小 学 校
伊 勢 市	宮 村 昇	明 倫 小 学 校	西 村 朱 美	北 浜 中 学 校
度 会 郡	釜 谷 正 吉	度 会 小 学 校	宮 原 浩 二	大 宫 中 学 校
鳥 羽 市	嶋 谷 潔	安 楽 島 小 学 校	濱 口 誠	加 茂 中 学 校
志 摩 市	竹 内 靖	鵜 方 小 学 校	小 川 幸 弘	布 施 田 小 学 校
伊 賀 市	吉 岡 久 晴	西 枝 植 小 学 校	五 輒 矢 信 一	府 中 小 学 校
名 張 市	森 脇 洋	桔 梗 が 丘 東 小 学 校	山 田 貴 志	南 中 学 校
紀 北	谷 司	西 小 学 校	芝 田 基 史	三 木 小 学 校
紀 南	榎 本 雅 夫	阿 田 和 小 学 校	小 林 登 喜 治	五 郷 小 学 校

平成28年度 新任教頭名

7月1日現在

地域	名前	学校名	名前	学校名	名前	学校名												
北勢	貝橋 東三原 成草 稲江 久岸 保松 楠石	梅本 松輪 由田 川垣 藤田 原山 井橋	美嘉子 吉 敏香 達哲俊 真理 正光 佳	大山田 南長島 中石神 長石 知海 大矢 矢知 舞中 蘭白	川原 井 井 田 野 坂 内 田 崎 古 田 崎 古 山	千登 孝茂 三七 圭高 毅彦 到喜 長榮 旭鈴	世子 男子 誠弥 哉也 誠也 哉也 誠也 哉也	星藤 西 笹 内 常 中 千 長	丘原 東 部 磐 西 部 種 太	丘尾 部 磐 西 部 種 太	千香 純 朋 健 謙 重	吉道 島 内 鳥 國溝 江 楠 東	本藤 田 田 居 富 口 藤 田 浦	茂祐 美 千香 子 樹 朋 健 謙 重	甲司 樹 子 忍 一治 人	長島 北多 島常 川常	北部 小度 島西 日戶 朝神 田明 生戸 神	中中 中小 小小 小小 小中
津	森 小川 谷向 三	林 口 本 井 浪	直り ま達 博秀	樹子 也之 潔信	上高育 南橋 一	野宮 生丘 志	植庄 長駒 富山	田山 川谷 田口	源邦 友裕 知富	嗣彦 彦明 旨生	明村 神一 西栗	田井 山 上野 北	浩隆 清公 敬	黒美 里片 が西	田里 丘田 郊	中小 小中 小中		
松阪	山原 中松 中奥 渡	口田 西澤 村山 辺	裕青 知正 元雅	紀子 子章 亮彥 明	第松 德朝 大相 勢	二尾 和見 江可 和	坂鈴 橋村 田佐 久	下木 本田 川間	かがり 容恵 敏和	三内 河白 部野 奈	中玉 板北	原利 板北	清和 昌幸 善	寺室 前部 川添	小中 小中 中			
南勢・志摩	中大 泉藤 福西 谷小	村島 原井 井川	太充 勝昭 まゆみ 美代子	志代 人二 清潔 み	早御 沼南 南桃 鏡國	修蘭 木島 取浦 府	深中 西辻 小西	川野 岡井 林沢	昭幸 良龍 宏文	久温 一孝 哉	佐宮 厚大 神浜	河古 小奥 村寺 本	口橋 林一 木山 亞	野港 南勢 菅東 一	小中 中中 小夫			
伊賀	中増 宮吉 本吉	矢田 田村 多川	英瑞 慎育 惠美 英毅	二穂 一紀 美子 薦名	久阿 柏阿 薦名	米山 植山 原張	大福 森赤	西田 永塚	一典 弘憲	良明 宏名	長三 靈張	上木 田訪 峰	亞秀 阿形	居広古 茂公 明美	小中 中中 錦生赤目			
紀北	加藤	有紀子	宮之上	小														
紀南	北林 脇本	辰惠 尚久生	入相 野谷	鹿谷 中	前谷	田川	幸進	利悟	有鶴	馬殿	小小	山矢 本賀	太睦都 絵	有御 馬浜	中小			
27年度 途中昇任	山下	英樹	山手	中	野田	幸範	掃水	小										

新しい風



「感謝」

桑名市立長島中部小学校
橋本吉香

新しい職場で教頭という未知の領域の職に就き、不安ととまどいでいっぱいのスタートでした。

正直、担任や部活動をしていた昨年度までがつい思い出されて、「楽しかったなあ。」と考えてしまう自分がいました。けれども、そのように思える幸せな教員生活を送ることができたのは、これまで出会った先生方や生徒たち、保護者など周りの方々のおかげだったと実感しています。

新しい職場では、わからないことだらけの私に笑顔で声をかけてくださり、忙しくても色々教えてくださる校長先生をはじめとする職員のみなさん、前任の教頭先生に感謝の毎日です。これからも感謝の気持ちを持って、長島中部小学校の職員の方々と子どもたちのために頑張りたいと思います。



人の中で人は育つ

いなべ市立北勢中学校
島田美樹

教壇に立っていたことが、すっかり過去のページとなり、周りから「激務だから、体調に気を

115名の方が本年度新しく教頭として着任されました。フレッシュな声をお届けします。

つけてね」と声をかけていただくことが増えました。自分でも驚くほど、元気にいられるのは、温かい職場はもちろん、先輩である校長先生や、教頭先生方が優しく、的確なアドバイスをくださるからです。会議の時はもちろん、電話をくださったり、職員室をのぞいてくださったり。今までこんなに大変な職務をしてみえたことに敬意を抱き、先輩方の人柄が職員室を温かくまとめてみえるのだと実感しました。本校の教職員がそれぞれの個性を生かしながら意欲的に実践ができることで学校力が向上し、その結果、子ども達が学校でできることが増え、自尊心を高めて次のステージへ進めるようになるために、家庭地域と連携しながら日々笑顔を絶やさず頑張っていきたいと思います。



職場の母となれる日まで

四日市市立川島小学校
内田千香子

人事異動の内示からの半月はあっという間に過ぎ、四月、教頭として着任した。新聞発表で知るところとなった中学校時代の恩師から勤務校に、「教頭は家庭における母のような存在です。どうか、先生や児童を温かく包み込むような教頭先生に…」と葉書が届いた。

すでに校長を退職され、元気でお過ごしとは存じていたが、遠くから私を見守ってくださる

方がみえる。職場の皆さんに支えていただきながら、私にくださったメッセージを心に、教頭として「職場の母」となれるよう職務に励みたい。



「美しく生きる」

四日市市立中部中学校
稻垣 哲弥

学校のいたるところに掲げられている本校の教育目標は、「美しく生きる」。生徒、教師、家庭、そして地域にも浸透している。

具体的でなく指標もわかりづらい。解釈は十人十色だ。しかしそもそも目標って「みんな違ってみんないい」じゃないか。

「美しく生きる」は、生徒や教師の「日々の生きざま」に迫るものだ。評価は自分自身への問いかけから始まる。「自律」とは、この「自分自身への問いかけ」の継続、なのかも知れない。このどうにも抽象的な本校の教育目標を誇らしく思う一方で、勤める者として大きな責任を感じる。

真夜中、一人の職員室にて自分にツッコミをいれる。「今日は美しく生きられたか？う～ん、まあ明日からがんばろか。」



『立場が変わって感じることは』



菰野町立千種小学校

市川 甲辰

「たくさんの方に支えられているのだなあ。学校もわたしも。」

明治9年から続く本校は地域の誇り。子ども達が地域の宝になっている。

たくさんの方が来校される。地域のボランティアさん、近隣のみなさん、保護者の方々、職場のみなさん、町役場のみなさん、出入りの業者さん、そして子ども達…。ちょっとした会話に喜びを感じさせていただく。

「はい、千種小学校、市川です。」「ひょっとして、市川さん？あ、やっぱりそうでしたか。さっきの電話の後で、ふと思い当たって、電話したのですわ。」10年以上もお会いしていない方からの電話。懐かしくもうれしいひととき。

いろいろな方と触れあえることに、喜びを感じさせていただく毎日です。



明るく、元気に

鈴鹿市立栄小学校

岡崎 智子

鈴鹿市立栄小学校は、田んぼに囲まれた今年創立140年の歴史を持つ学校です。教職員間でのコミュニケーションもよく図られ、明るい雰囲気の中で職務に取り組んでいます。この環境の中で、新任教頭として勤められることを喜ばしく思っています。

まだまだ先を見通すことができず日々ご迷惑

を掛けていますが、校長の方針に基づき、今何をすべきか、自分に何ができるのかをしっかりと考えながら、職務を行っていきたいと思っています。これからも引き続き、教職員が元気で明るい気持ちで児童や保護者、地域等に向き合える職場環境づくりに努めています。

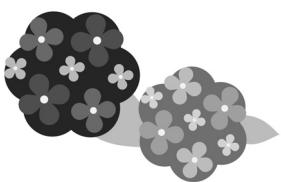


新たなチャレンジ

亀山市立昼生小学校

石 橋 明

「おはようございます！」と職員室の扉を開けて子どもたちの明るい声が響く昼生小学校。全校児童70名の小規模校ですが、「あったかいなあ」と実感する地域や保護者の方々のサポートと幸せな環境へ赴任して半月が過ぎました。でも、まだまだ不慣れな教頭職に右往左往しています。早く先手必勝で攻めの仕事がしたいと思いますが、至らない自分に情けなく思っています。そんな時、校長先生や職場の方々、先輩管理職の方々から、たくさん声かけをしていただき感謝の気持ちでいっぱいです。教諭時代とは立場が変わり、難しさを感じてはいますが、子どもたちがのびのび生き生き学べる昼生小になるよう責任を果たしていきたいと思います。



最初で最後の教頭

津市立美里中学校

長 井 清 隆

赴任前日、「とにかく体力勝負、体調には気をつけて。」と教頭先生から別れ際の言葉。そして今、その言葉を全身で実感しています。このような状況でもありがたいのは、心配りと笑顔のすてきな校長先生と、献身的に働く教職員の皆さん、前任の教頭先生に支えてもらえてることです。この人たちのためにも、「自分が頑張らなければ。」とエネルギーが沸き上がります。次年度、本校は義務教育学校として新しく生まれ変わります。私にとって教頭最初の年が、学校にとっては最後の教頭を迎えた年になることには、何か特別な意味でもあるのでしょうか。今の学校が結びつけてくれた人々との出会いを大切に、多くのことを学んでいきたいと思います。



信任されるように

津市立片田小学校

上野毛 靖 人

4月に赴任し、教頭としての仕事が分からないま、校長先生をはじめ、先生方に助けていただき、何とか一日一日を過ごしています。文書一つを作成するにも、時間がかかり、今日一日何をしていたのかと落ち込むことが多い日々です。そんな時に力をくれるのは、「大好き片田」と言える子どもたちの笑顔です。

この4、5月は、周りから助けてもらったり

与えられたりすることが多い2か月でした。しかし、いつまでも甘えているわけにはいきません。一日も早く、教頭として、片田小学校の子どもたち、保護者、そして職員に「与える存在」になりたいと思います。「新しい（新任）」から「新しいことをさせてもらえる」「信じてさせてもらえる」（信任される）教頭となれるよう日々努力していきたいと思います。



「自分の伸びしろを信じて」

津市立一志西小学校
三浪秀信

「夜の会議がいっぱい本当にたいへんやなあ。」と声をかけた職員から、「そう言っていただけありがとうございます。」と笑顔で返していただき、逆に元気づけられました。

初めての教頭の職務に手一杯で、時間的、精神的に余裕がなく、笑顔を失っていることも多い私ですが、職員にとって、働きやすい、働き甲斐のある学校になるように少しづつ成長していきたいと思います。

子どもたちに接することが少なくなり、はりあいのなさを感じることもありますが、「教頭先生、小鳥が死んでいます！」との訴えに、子どもたちと小鳥を土に埋めて石のお墓を作ったり、「ムカデが…」というSOSに、ムカデを退治したり、その時々の触れ合いを大切にしています。子どもたちにとっても職員にとっても、頼りになる教頭になれるよう精進していきます。



「ふるさと飯高」

松阪市立宮前小学校

板谷昌幸

この度の人事異動で、新任の教頭として松阪市（旧飯南郡飯高町）立宮前小学校に赴任することになりました。私自身、飯高に生まれ、育ち、そして住んでいます。山深い田舎ですが、山紫水明、空気も澄み渡り、自慢のふるさとです。

宮前小学校で先ず感じたことは、子どもたちが明るく元気で、学年を超えて仲がよいということです。朝は気持ちのいいあいさつに始まり、一日中笑顔であふれています。全校児童は84人と小規模の学校ではありますが、休み時間になるとみんな運動場に出て、楽しそうに遊んでいます。

職員の皆さんも仲がよく、職員室はいつも明るい話題でいっぱいです。子どもを中心とした会話が多く、実に楽しそうです。しかし、いざスイッチが入ると静まり返り、カタカタとパソコンのキーボードの音だけが鳴り響くようになります。切り替えの早さにも、驚かされます。

保護者の皆さんや地域の方々も温かく、とても学校に理解があり、協力的です。つい、「今でもこんな学校があるんだなあ。」と、思ってしまいます。そして、教頭として本校に勤務することができたことに感謝する毎日です。

しかし、この恵まれた状況や環境に甘んじることなく、日々精進し、一日でも早く、先輩の教頭先生方に追いつけるよう頑張ります。



新たな気持ち

多気町立勢和中学校

渡 辺 明

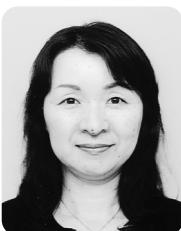
まだ少し肌寒さが残る早朝。ウグイスの声だけがする。校門へと続く坂道を登りきると、グランドの桜も満開である。教頭としての初出勤だ。

私は、今まで多くの諸先輩の先生方から、指導に専念できる環境を作っていた。大いに感謝です。

これからは、教頭という立場で恩返しをしていく。校長を補佐し、精一杯やろうと心に誓った。

教職員がつまづいた時には、相談に乗り、力を発揮できるようにアドバイスしたり、日々の努力に対してしっかりと称賛していきたい。

今、「チームとしての学校」という言葉をよく耳にする。勢和中学校では、以前からコミュニティ・スクールとして、地域とともに子どもたちを育てていくことに力を入れている。職場はもちろんのこと、地域や専門家の協力を得ながら子どもたちが育つ環境づくりをしていきたいと思う。



誰もいない朝の 職員室で

伊勢市立御園小学校

大 島 充 代

4月1日朝、誰もいない職員室の前方中央の席に座り、自分がすべき仕事について色々と考えを巡らせた。知っている限りを並べて。

一ヶ月がたった今、「自分の想像を超えた世界が広がっていた」と改めて思う。

文書作成や報告の多さにも悩んだが、一番考えたのが、効率的な職務の進め方、先生達へのスムーズな依頼方法など、自分の仕事を学校の流れにうまく乗せることだった。孤独も感じた。でも、自然とこれまで御一緒した教頭先生方の真似をしている自分に気付き、こうやって『教頭』になっていくのだと思った。電話一本、来客一人、校長先生の一言で仕事の流れも変わる。今日も誰もいない朝の職員室でニッコリ笑ってみる。どんな流れも乗り越える柔軟さを忘れないために。



「頼れる教頭」

大紀町立大紀中学校

辻 井 良 孝

自分が教頭になる時、「どんな教頭になりたいのか?」は避けて通れないテーマでした。何か漠然としていますが「頼りになる教頭」と思い浮かべたのを覚えています。不安(?)に胸を膨らませながら新任教頭としての新年度は、待ったなしの日々が進行中です。前任校の教頭先生から励まし(冷やかし)の電話を早々にもらったり、近隣校にいる先輩の教頭先生が帰りがけに寄って頂いたり、また今まで指導を受けてきた校長先生や教頭先生からも数々のアドバイスを頂いて、今はそんな先生方の温かさに救われ、励まされ、日々奮闘中です。「頼れる教頭」になれるのは一つのことやら。一年後はどんな心境でいるのかだけは楽しみにしている自分がいます。

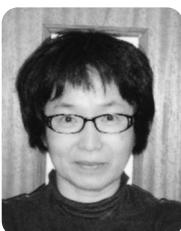


最後の1年、 教頭として

鳥羽市立桃取小学校

西 井 潔

潮の香りを感じながら船に乗り込む。船窓から注ぎ込む太陽と白波の間から反射される光で目を開けていられない。波に揺られ12分、港に到着する。カモメの声と幾艘もの漁船が擦れ合う音を聞きながら、徒歩10分で学校に到着。空雲木海波風のコントラストが心地いい。正に風光明媚である。朝、子どもたちは校舎に入るとすぐに職員室に挨拶をしに来てくれる。癒される瞬間である。児童は10名。素直で穏やかな子どもたちが育つのは、島の方々のあたたかさと自然の恵みの賜物だろう。この伝統ある小学校も今年度で統合される。この1年が子どもたちのよき思い出となり、新たな旅立ちが気持ちよく出来るように、教頭として何が出来るのかを考えながら子どもたちを見守っていきたい。



「走られへん」

志摩市立国府小学校

小 川 美代子

海岸そばの学校に赴任した。着任したその日に地震。校長先生が不在の時間、「どうするの？」と気持ちは焦るばかりで結局何もできなかった。この学校は地震のときには、近くの山に走って避難することは聞いていたものの、実際にはうまく行動できない。日頃の訓練が大切だということを痛感したできごとだった。また同時に管理職という役職の重みを感じたできごとだった。

近頃は、やっと「教頭先生」の呼び名にも慣れたが、日々、目の前のことこなすだけ、いや、こなすこともできず、周りの方にご迷惑をかけることもしばしば。「走られへん」と決めつけず、とにかく、懸命に「走りぬく」ことを目標にがんばりたいと思います。



「母校にて」

伊賀市立新居小学校

井 上 亜 古

教頭として、母校に務めさせていただくことになりました。小豆色の柱が印象的な校舎、子どもの頃から好きだった校庭の藤棚等。当時の記憶がよみがえり、感慨深いものがありました。

思うように仕事がはかどらず、時間ばかりが早く過ぎていく毎日で、自分の役割がまだまだできていないと感じています。子どもたちや職員が笑顔で生き生きと過ごせる学校であり、保護者や地域の方から信頼される学校であるよう 「教頭として自分にできることは何か。」を考え、一人ひとりとのつながりを大切に精一杯努めていきたいと思います。





がんばります

名張市立錦生赤目小学校

阿形 明美

4月1日から生活が一変した。新しい職に就いたので、当たり前なのだが、激しく一変した。予想を超える業務の多さと職責の重さにつぶされないように、日々なんとか過ごしている。

そんななか、改めて学校の楽しさを実感する。季節があり、日々成長する子どもがおり、子どもを取り巻くいろんな事柄や人と出会える。

時々「きょうとうせんせー」と声をかけてくる子どもがいる。日々の仕事に忙殺され、必死の形相でいる私に声をかけてくるとは、なかなかのチャレンジャーだ。いろんなおしゃべりをしているうちに少し仲良くなってきた。こんな風に仲良しがふえるといいな。やはり、学校は楽しいところだと再確認の日々である。



「尾鷲よいとこ」

尾鷲市立宮之上小学校

加藤 有紀子

「ヤサホラエー ヤサホラエー 尾鷲よいとこ 朝日をうけて～」運動会で踊る「尾鷲節」を6年生が1・2年生に教えています。本校は全児童114名。子どもたちの「教頭先生」という、人懐っこい元気な呼びかけに背中を押され、新米教頭の毎日を送っています。

4月当初は、地域もわからず仕事もわからず、「何のために」しているのかもわからない状態でしたが、新しい「人」や「地域」との出会い

に恵まれ、教頭として悪戦苦闘を楽しめるようになってきました。

この5月末に行われる運動会では、「ふるさとを愛する『おわせ人（びと）』」として、心一つに、尾鷲節を踊りたいと思います。



「居心地の よい学校に！」

紀宝町立相野谷中学校

脇本 恵生

3月31日、2年間の県教委勤務を終え、自宅に帰ってきたら2時を過ぎていました。

頭の切り替えが出来ないままの新年度スタート。提出書類等の事務処理や教頭職の仕事の多さに翻弄されながらも校長先生や職場の先生方の温かい言葉や、32人の生徒たちのいきいきと活動する姿にパワーをもらいながらなんとか約1ヶ月を乗り切ったという感じです。

最近ようやく「教頭先生」と呼ばれることにも慣れてきましたが、「教頭になると名前が無くなる。教頭という職名で呼ばれる。教頭はそういう重要な職務を担っている。」との教頭会総会での会長の言葉を肝に銘じながら日々精進していきたいと思っています。

子ども達にとって職員にとって学びあえる、そして居心地のよい学校作りのために。



趣味・トピックス

スポーツを通した人との出会いに感謝

亀山市立白川小学校 杉 谷 真 孝

スポーツは観るのもプレーするのも好きですが、今でも、ソフトボール、スキーや野球を少しですがしています。ですので、趣味は、スキーやソフトボールと野球かなと思います。

スキーは大学3年生のときに野球部の先輩らと一緒に初めて行ったのが野沢温泉スキー場でした。2メートルほどの積雪と外湯とよばれる温泉がいくつもあり、風情ある雰囲気のいいところだと感じました。初めてのスキーということで、スキー場は寒いと思い、兄のダウンジャケットを借り、毛糸のセーターを着込んでスキー。1日目は、緩斜面で直滑降の練習をしましたが、転倒の連続。昼食休憩のため食堂に入った時、汗がいっぱいです。スキーってこんなに暑いのかと驚いたことを今でもよく覚えています。早く帰りたいと思いつつ、4日目にスキー板に乗って滑る感覚が少しつかめたときはとても嬉しく思いました。その後、毎年のように仲間といろんなスキー場に行きました。なかでも、蔵王温泉スキー場の巨大なソフトクリークのような樹氷には感動しました。そして、就職後も職場の仲間らと一緒にスキーを続けており、昨シーズンも白川小の職場の仲間と一緒にスキーを楽しむことができました。このようにスキーを楽しめるのも、大学での野球部での先輩や仲間との出会いや職場での出会いがあればこそだと思っています。

ソフトボールは、関中学校に異動した41歳の時に、地域のナイターソフトボールのチームに誘われ参加しました。春と秋の年2回のナイターリーグ、多いときは8チームでのリーグ戦。選手の中には、高校野球や高校ソフトボールのチームで活躍された方々もみえ、趣味の域をこえて真剣勝負のような対戦もあり、とても楽しくプレーすることができます。しかし、50歳を過ぎてからは、身体の動きの衰えを感じ、今までとれた打球が捕れなかったり、凡打したりすることも多くなってきています。しかし、仕事を忘れて気持ちのいい汗をかくことができ、楽しい一時を過ごすことができました。また、地域の方々や教え子の親御さん等と会話のできる貴重な場もあり、今では、

教え子と久しぶりにグランドで顔を合わせができる再会の場もあります。このようにソフトボールを通してのたくさんの方々に出会いことで、地域の方々等とつながりも強くなったように思います。

野球は趣味というより生活の一部という感じがしています。それは、中学校で野球部の顧問を26年間していましたこと、中学・高校・大学と野球をしていたこと、そして今、高校野球部OB会やマスターズ三重県大会の担当をしていること等、野球が生活と切り離せないからです。しかし、字数の都合上、野球については伝えるのが難しいので割愛させていただきますが、中学校の野球部顧問時代には、現在、教頭職にある方々とも記憶に残る数々の試合をしたことが思い出されます。

また、中学校での部活動では、教頭になってから女子バレー部と男子バスケ部の顧問をする機会もいただきました。西郊中学校バレー部コーチをはじめ、多くの指導者や保護者の方々と出会いを通して、新たな発見や野球の指導との共通点に気づくことができたこともよき思い出です。

様々なスポーツを通して多くの方々と出会えたことで、多くの人とのつながりができたことに、心から感謝しています。このようにスポーツは人と人をつなぐと思いますので、これからもスポーツはもちろんのこと、人の出会いと感謝の気持ちを大切に過ごしていきたいと思っています。



土曜授業について

度会郡大紀町立錦小学校 河村 広之

「緊急地震速報です!!」突然の放送音声によって抜き打ちの避難訓練が始まりました。児童は、それぞれがいた場所で揺れから身を守る動作をとります。中には、トイレにいた児童もいました。揺れが収まると直ちに津波避難所へ向かいます。校舎裏手には、素早く避難するための防災非常口が整備されていて、児童はここからてんでに避難所へ向かいます。運動場へ遊びに行こうとして昇降口を出ていた1年生の児童達は、突然の訓練に戸惑い上履きに履き替えてから廊下を防災非常口へ向かっていきました。

5月16日、昨年度最初の土曜授業は、防災学習・



避難訓練で始まりました。錦小学校のある大紀町錦地区は、72年前の昭和東南海地震による大津波で、家屋の98%が流失し、64名の方が亡くなられているため、地震後5分で住民が避難できるよう、2基の錦タワーを始め29か所の津波避難所が整備されています。児童が向かったのは、学校の裏山にある避難所です。避難の開始から3分30秒程で全員の集合が確認されました。防災授業を担当して頂いた三重大の川口准教授からは、「児童の聞く態度がよい」「訓練に臨む姿勢・態度がよい」「6年総合学習の活動が工夫されていた」との講評を頂きました。(6年生は、避難所への避難の仕方について総合で調べ学習をしました。)

この他、土曜授業では、通常の授業はもちろん、地域と連携したいきいき集会(学習発表会)や地震体験(県防災教室)・非常炊き出し体験(日赤出前講座)も行なってきました。今年度も地域の方々との交流や防災、環境等について学んだり体験したりする授業が予定されています。

